

インターンシップ終了レポート

塚本奈留美

サマカバイでは一生懸命でなおかつ楽しそうにハンディクラフトトレーニングをしていたのが印象的でした。お母さんたちもフレンドリーで英語が通じなくても笑顔でコミュニケーションが取れるようになりました。最初は初心者で何も作ることができないお母さんがいっぱいいたのですが知らない間に様々なプロダクトを作ることができるようになった方もいました。またショーケースのプロダクトも新しいものが増えていてお母さんの成長が目ではっきりと感ずることができました。途中でオフィサーの問題がありグループとして不信感を抱いてしまうこともありました。チュートリアル資金を集める企画等で自立しようと頑張っている姿を見ることができました。

Language Exchange では普段体験できないような経験ができました。最初は日本語を教えるとなってもないから教えたらいいいのかわかりませんでした。ただ教えるだけでもつまらないし、使えないので普段から使えなおかつアクティビティーを加え楽しいイベントにすることに集中しました。あまり前に立ち、自分が運営することの経験が少なかった私にとってとても貴重な経験ができました。シラバスを作り内容を考えるのがとても大変でしたがそれ以上にみんなと一緒に言語だけでなく文化の違いを共有するのが楽しかったです。

スタディーツアーは私にとって価値観を大きく変える経験となりました。スタディーツアーのファミリーインタビューでパヤタスに住む人たちの家に行きました。私はここに住む人たちは幸せじゃないのだと思っていました。なぜなら子どもに十分な教育を受けさせてあげられない、家に寝るスペースがない、電気を使えない、働く機会がないなどパヤタスには貧困から生まれる様々な問題があるからです。しかしファミリーインタビューで新たな発見がありました。一人のお母さんどれだけ貧困で苦しんでいても笑顔で幸せだと言っていたことです。そのお母さんは家族や周りの人々と助け合って生きているから幸せだと言っていました。私はその言葉を聞いた時に考え方が変わりました。もともと自分の家庭環境はあまり裕福ではなく不満に思っていました。しかしパヤタスに行き自分の目で状況を知りお金がなくても幸せだと言っているお母さんの声を聞き、なんて私はラッキーな環境に生まれてきたのだと感じました。そういう風に私の考えを変えたのはハロハロの活動のおかげだと思います。

私は元々貧困や支援に対するビジョンがあまりありませんでした。フィリピンでしかできないことは何だろうと考えたどり着いたのがハロハロでした。そしてハロハロを通して様々な経験をし、自分の価値観や考え方を考えることができました。この経験を活かし、自分の将来に向かって頑張ります。10か月間お世話になりました。ありがとうございました。

